

# 嶋満神社便り

令和六年 二月号 (第四十二号)

発行 嶋満神社奉賛会

皆様明けましておめでとございます。

年末年始の拝殿お飾りと撤去、また沢山のお供えなど、皆様には大変お世話になりました、ありがとうございます。御礼申し上げます。



新型コロナウイルスも五類へ移行され、町中では様々な行事も復活しているようです。それとともに、今まで連続と続いていた行事が一旦途絶えたことにより、大事な部分が伝承されなくなり、安全面にまで影響が出ているというニュースも見受けられます。継続していくことの大切さを、いろんな面から改めて認識させられます。



今後共、当社のお守り、お世話に、会員の皆様の切れ目のない、より一層のご協力を賜りますよう、お願いいたします。

## 東小浜 歴史プチオーキング

冬の貴重な晴れ間を利用して、福井県は東小浜を「歴史プチオーキング」してきました。

若狭歴史博物館で三月十日迄開催中の「ちよつとむかし」のくらし展、**国鉄小浜線の頃**という企画展を見に行つて参りました。もちろん「小浜線に乗つて」です。懐かしい写真がいっぱいで、楽しい企画でした。

で、本日の主題はそのあとのものです。歴史博物館から遠敷川を渡つて東へ徒歩約十五分で「**若狭国分寺跡**」に着

きます。このあたりが古代小浜の(若狭の)中心地だったんですね。今はただ、枯れ草があたりを覆い、石畳のあとだけが往時を偲ばせています。

地図を見ると、この一帯には遠敷川のほかに二本の川が複雑な三角州を形作っており、往時はもう少し海が内陸まで入り込んでいたであろうことを考えると、食料生産や往来に非常に重要な場所だったことが推測できます。さらに少し東側には波静かな三方五湖もあり、有名な鳥浜貝塚の遺跡もあることから、ここに国分寺が置かれたことの意味も十分に納得できますね。

面白いのは、この若狭国分寺跡のすぐ横(かつては敷地内だった)に古墳があり、その円墳上に「**若狭姫神社**」が祀られていることです。

若狭姫神社については本誌第三十九号(令和四年十二月号)に詳しくご紹介しています。



若狭国分寺跡

おそらくは現在の国道をはさんで反対側にある本社(若狭一の宮)のご分霊と思われませんが、いつ頃、そしてなぜここに祀られたのかは不明です。そしてさらにその横には宝永二年(一七〇五)に再建された現在の「国分寺」の立派な姿。

そもそも国分寺に隣接して古墳があること自体全国的にも珍しいとか。

古墳、若狭姫神社、国分寺：「歴史の不思議」がギュッと凝縮された、ミステリアスゾーンと言えます。



墳丘上の若狭姫神社

博物館も国分寺跡も、もちろん車でも行けますし、時節柄、奈良東大寺の「お水取り」の「お水送り」行事の行なわれる「**鵜の瀬**」、「**神宮寺**」、「**若狭姫神社**」の本社、そしてそこと一対を成す「**若狭一の宮**」の上社である「**若狭彦神社**」も近くにありまので、皆様も一度行かれてみてはいかがでしょうか？